

■ 学校の共通目標

|      |        |                                                                        |                  |  |                  |  |
|------|--------|------------------------------------------------------------------------|------------------|--|------------------|--|
| 授業作り | 重<br>点 | ・学習目標の明確化を図る。<br>・I C Tの活用を進める。<br>・主体的・協働的に学ぶ学習を図る。<br>・個に応じた指導を工夫する。 | 中<br>間<br>評<br>価 |  | 最<br>終<br>評<br>価 |  |
| 環境作り |        | ・安心して学習へ取り組める良好な学級集団を育成する。<br>・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒にわかるように示す。          |                  |  |                  |  |

■ 教科の取組内容

| 教科     | 学習状況の分析（４月）                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 課 題（４月）                                                                                                                                                                                                                                                                             | 改善のための取組（４月）                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 中間評価・追加する取組（10 月） | 最終評価（２月） |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------|
| 国<br>語 | <p>【調】新３年生は、「知識・理解・技能」は全国を上回っているが、それ以外は全国を下回り、特に「書く能力」は全国より５ポイント以上低い。新２年生は、「書く能力「読む能力」は全国を上回っているが、「話す・聞く能力」は 2.7 ポイント、「知識・理解・技能」は 4.3 ポイントの全国より低い。</p> <p>【学】授業には意欲的に取り組む生徒が多いが、学習理解や学習内容の定着が不十分な生徒も多い。また、文章を書くことに対して苦手意識を持っている生徒も多い。</p>                                                          | ・書くことへの抵抗感を減らし、少しずつ書く文章量を増やしていくことが課題である。また、書くための語彙力を高める指導も必要である。<br>・集中して聞いたり、大事なことをメモしたりする習慣が身に付いていない。<br>・文法や語句に関する学習内容が定着していない生徒が多いことが課題である。                                                                                                                                     | ・日常的に書くことを増やし、文章の構成や効果的な表現について計画的に指導し、それを生かす場面を意図的に設ける。<br>また、国語辞典の日常的な利用を促す。<br>・聞き取り練習などを定期的に行い、聞きながらメモをとったり、集中して聞いたりする習慣を身に付けさせる。<br>・文法や語句では、ICT を活用したり、例文を作るなど能動的な活動を入れたりすることで、知識の定着を図る。                                                                                                                         |                   |          |
| 社<br>会 | <p>【調】新２、３年生ともに各観点において、全国平均を若干下回っている。特に「知識・理解」では、全国平均値より低い傾向が見られた。「資料活用の技能」の面でも課題が見られる。学力上位層と下位層との差が大きい傾向が見られ、下位層の底上げを図る必要がある。</p> <p>「関心・意欲・態度」では、意欲的な面が見られる。</p> <p>【学】授業は意欲をもって参加する生徒が多い。提出物の状況も概ね良好である。分野によって、興味・関心や学習への取り組みに差がある。</p>                                                         | ・社会的な事象に対する関心や意欲は高いが、授業で学習をしたことが定着していないことが課題である。<br>日本語の理解が難しい生徒も多い。<br>・資料活用については、様々な資料を読み取ることを苦手にしているところが見られる。<br>・社会的な判断力や表現力をつけていく上で必要な、基本的な知識が不足しているところが見られる。                                                                                                                  | ・ICT や各資料、実物など視覚に訴える教材を有効に活用し、関心・意欲をさらに高める。<br>・授業の最後に振り返りをおこなうようにし、単元ごとの振り返りをおこなうことで学習内容の定着を図る。<br>・資料活用の技能は、授業の中で地図や統計などの諸資料を扱い、読み取る力を高める。<br>・社会的事象について、主体的な学習を通じ、自分の意見や他者の考えを積極的に取り入れ、思考、判断力、表現力を高めていく。<br>・日本語の理解が難しい生徒に向けて動画や図、絵等を活用する。                                                                         |                   |          |
| 数<br>学 | <p>【調】新２年生は、全体の正答率が全国を上回っている。「数学的な技能」において全国を大きく上回った。「数と式」「図形」において全国を上回ったが、「関数」では全国より 1.6 ポイント下回った。新３年生は、全体の正答率が全国より 0.4 ポイント下回った。「数学的な技能」「知識・理解」が全国よりも下回った。「図形」「関数」において、全国を上回った。</p> <p>【学】授業内における演習や発言では、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。発展的な問題に対しても、既習事項を活用しながら解決に導くことができる生徒も多い。一方で、基礎的な技能、知識の理解が不十分な生徒もいる。</p> | ・新２年生については、「数学的な技能」および「知識・理解」において成果が見られている一方で、「見方・考え方」にやや課題が見られる。既習事項を活用して、発展的な内容に取り組んだり、なぜそうなるのかという原理について考えたりする力がやや不足している。<br>・新３年生については、「数学的な技能」および「知識・理解」において課題が見られる。計算方法や用語といった基礎的な技能、知識を身につける必要がある生徒がいる。<br>・どの学年においても、数学が苦手な生徒の、家庭での学習習慣が定着しておらず、日々の学習の復習を行わせることが課題である。       | ・習熟度別少人数授業を活かし、各コースに応じた授業内容を展開する。具体的には次の通りである。<br>・発展的なコースでは、応用的な内容、問題について扱うとともに、解説の場面でも、生徒たちに「なぜそうなるのか」ということを積極的に考えさせるなどの、アクティブラーニングを多く取り入れる。<br>・基礎的なコースでは、基本的な技能や知識を身につけさせるための演習や解説に多くの時間を割き、反復させることで身につけていく。<br>・定期考査だけでなく、定着度を生徒自身や教員が客観的に把握できるようにするため、こまめに小テストを行う。<br>・家庭学習習慣が定着できるよう、授業終了時に授業の復習となる家庭学習課題を与える。 |                   |          |
| 理<br>科 | <p>【調】第２学年では正答率 48.8％で全国正答率とほぼ同等の結果になった。しかしながら粒子や観察実験の技能の分野の正答率が低い。</p> <p>【調】第３学年では正答率 48.6％で全国正答率をやや下回る結果になったが、実験時に目的を明示し器具の扱い等について説明の徹底を図った結果、知識や理解の定着が図られてきた。</p> <p>【学】授業は意欲をもって参加する生徒も多いが、下位層の生徒の中には取り組み方（提出物の状況、実験レポートの提出）が不十分な生徒もいる。</p>                                                   | ・新宿区学力定着調査の結果では全国平均をやや下回る結果になった。特に「観察実験の技能」や「知識・理解の定着」について課題が見られる。実験の目的や方法について順序立てて明確に説明し理解を促していくことが必要である。<br>・粒子概念の形成は理解が難しい分野でもあるが ICT 等を用いて生徒が身近に考えることが出来るような授業方法を検討していくことが必要である。<br>・知識の定着不足の生徒が多いが、この要因として家庭学習による学習内容の復習が十分でないことが課題である。<br>・中位層～下位層は自ら課題をみつけ解決しようとする姿勢が不足している。 | ・授業の理解の促進の為 ICT を積極的に用いるとともに、知識の定着を図るために授業開始時に授業のテーマの提示、終了時に授業内で行った内容に関する知識の復習、定期考査試験前の語句や知識の復習を行う。あわせて、家庭学習の充実も図っていく。<br>・実験方法や実験により得られた結果について班で話し合い活動を行うことにより、自ら課題を解決しようとする姿勢を育成し中位層の底上げを図る。<br>・実験の目的を明確化し、実験手順の意味を考えさせることにより実験内容の定着を図る。                                                                           |                   |          |
| 英<br>語 | <p>【調】新２、３年生ともに、全ての観点における正答率は全国より上回っている。</p> <p>【調】「聞くこと」の能力は全国平均より新２年が 12.9%、新３年が 6.2%上回っている。しかし、他の３観点は全国平均より上回っているものの、大きな差はない。</p> <p>【学】授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多く、言語活動にも積極的な態度が見られる。一方で「話すこと」「書くこと」による表現活動には苦手意識をもつ生徒も見られる。課題提出に関しては、中位層・下位層を中心に取り組みが不十分な生徒がいる。</p>                                | ・「聞く」というインプットの能力は高いが、その聞いたものをアウトプットする機会に恵まれていない。そのためアウトプットの機会を増やし、授業における「話す」言語活動の機会を取り入れ、繰り返すことによって「表現の能力」の定着を図る必要がある。<br>・「書く」ことにおける指導に重点をおき、自分の考えを３文程度の英文にする機会を多く増やす必要がある。                                                                                                        | ・既習事項の語意や表現を用いて、英文を書くことを継続的に指導する。<br>・教科書の各パートにある「Write」を活用することで、時には個人添削するなど短い英文を日ごろから取り組ませ、単元の最後や Daily Scene でまとまりのある英文に取り組ませる。<br>・ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、即興でも英語が出るよう、普段から自らの意見を表現し伝える活動を継続的に行う。                                                                                                                     |                   |          |